



学校だより 6月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番
TEL (811) 6710

あいさつの効用

児童支援専任 伊藤美香

児童支援専任になって3年目に入りました。最初は、いろいろな学年の子どもたちに声をかけることすら躊躇していましたが、3年目の今になってある変化を感じています。それは、あいさつをする子どもがとて多くなっているということです。

毎朝正門又は西門前に立ち、安全な登校を見守りながら「おはようございます」とあいさつすることが私の1日の始まりです。1年目は、ほとんど無言で通り過ぎる子どもたちでしたが、徐々にあいさつをしてくれるようになってきました。同時に朝の様子でいろいろなことが分かってきました。

まず学校前の道路を通る車はとても良心的だということです。たいていの車は子どもの姿を見かけると止まってくれます。安全を見守る立場としては本当にうれしいことです。それ以上に、運転席から会釈や手を振ってあいさつをしてくれる方がなんと多いことか。今では、「そろそろあの色の車が通るかな。」と思うことも多くなってきました。運転手さんと会話する私の姿を子どもたちは見えています。「あいさつしているから、先生の知り合いかな？」と知っているでしょう。

次に、学校前を通り過ぎる地域の方々からも「おはようございます」と声をかけられるようになったことです。しかも、寒い冬の朝や雨風の強い朝は特に「ご苦労様ですね」とか「ありがとうございます」と励ましやお礼まで声をかけてくださいます。声をかけるということの大切さを思わずにはられません。地域の方が私に話しかける様子を見て、つられて私にあいさつしている子どもたちも少なくはないと思います。

そして、卒業生も颯爽と子どもたちに混ざって制服姿で登校していきます。初めは、そういえば見たことある先生だと思っても、素通りしていましたが、会釈やあいさつをだんだんするようになってきました。私も成長を見守っていることが伝わっているかなとうれしくなります。

進級して2か月たちました。必ずしも笑顔で登校しているわけではないということも改めて分かったことです。泣きべそをかきながら、その気持ちを振り切るがごとくおうちの方と別れていく子や、なりふり構わずふてくされてこの通学路でクールダウンしながら門をくぐる子、間に合うかどうか猛ダッシュでやってくる子も、後で教室を見回ると、何事もなかったかのように教室では過ごしています。せめて、明るく「おはよう！（一緒にいるから大丈夫だよ）」と言って、登校の一押しができるのが、朝のあいさつかなと思っています。それが私の役目かなとも最近は思っています。

さあ、6月も「一緒にいるから大丈夫だよ」の思いをのせて「おはよう」の声をかけていきます。学校前の道路を通り過ぎる全ての方の思いに感謝を込めて。何卒よろしくお願ひします。